

## 春慶塗り



板を立体的に仕上げる曲げの技法は特に優れており、色々な製法に生かされています。透明で木肌の持つ美しさをそのまま活かすところに特徴があります。慶長十二年(約四〇〇年前)、当時の高山城主重頼の長兄、金森重近公(号宗和)の時代、木匠高橋喜左エ門、塗師成田三右エ門によって蛤形の盆が作られ宗和公に献上されたのが創始であるといわれます。



## 酒



- 渡辺酒造店
- 平瀬酒造店
- 蒲酒造

標高3000メートル級の山々に囲まれた飛騨地方は、冷涼な気候、清らかな水、良質な米などの恵まれた条件のもとで酒造りが行われています。飛騨地方で全13軒ある酒蔵(天領酒造、高木酒造、川尻酒造、原田酒造、平田酒造、船坂酒造、二木酒造、田邊酒造、老田酒造、平瀬酒造、渡辺酒造、蒲酒造、大坪酒造)では、それぞれの銘柄でこだわりの酒がつくられています。

## 木工

山に囲まれ良質の木材に恵まれた飛騨では、古来木工のレベルが高かったそうです。大和朝廷の頃から平安時代にかけての600年もの間には、都の造営・社寺の建築に従事する匠丁(木工)が税の代わりに飛騨国から送り込まれ、高い技術を誇り「飛騨匠(ひだのたくみ)」と称されていました。



- 日進木工
- キタニ

伝統技術を生かしながら、北欧デザインをはじめ、現代の生活に合うモダンスタイルの家具を製造している2社です。



## 渋草焼



天保11年に高山郡代、豊田藤ノ進が陶磁器を自給自足すべく、官民共同の窯場を作ったのが始まりです。

原料に地元の渋草陶石を用い、瀬戸や九谷といった磁器産地から陶工、絵師を招聘し、瀬戸や九谷の特徴を織り交ぜながら、飛騨赤絵、飛騨九谷と呼ばれる独自の磁器を生み出しました。

- 芳国舎



江戸幕府崩壊に伴い、一切の援助が打ち切れ、衰退しましたが、明治十二年、勝海舟、明治政府元勲後藤象二郎の命名により「芳国社」とし会社設立届けを知事宛に提出しました。より良い作品を作る為に職工を京都や有田に勉強の為、派遣させ技術向上に努め、数々の内外国の展覧会等で賞を受賞し、渋草焼、芳国社(舎)の名を高めました。その努力が渋草調といわれる独特の意匠となり現在も当時の精神や技術の保持に努め昔と変わらぬ様、手造り、手描きで製作を続けています。

## 和蠟燭



- 三嶋和蠟燭店

明和年間(1764~72)創業の三嶋和ろうそく店は240年以上続く全国でも数少ない手作り和ろうそくの老舗です。店内には現店主が先代とともにつくった日本一大きな和ろうそくも展示してあります。

NHK連続テレビ小説「さくら」の舞台となった和ろうそく店です。パタフライ・スツールで有名な柳宗理が2度訪れています。

訪問先は、。参加人数、先方の受け入れ人数の都合により、変更になります。